



Title	Health Status and Indicators among Homeless Inpatients at an Urban Emergency Hospital
Author(s)	吉田, 寛
Citation	大阪大学, 2004, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/45329
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	吉 田 寛
博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)
学 位 記 番 号	第 1 8 5 4 7 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 16 年 3 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 医学系研究科社会医学専攻
学 位 論 文 名	Health Status and Indicators among Homeless Inpatients at an Urban Emergency Hospital (救急搬送入院となった行旅病人の健康状態と健康指標)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 多田羅浩三 (副査) 教 授 的場 梁次 教 授 荻原 俊男

論 文 内 容 の 要 旨

〔目的〕日本の大都市部において長引く経済不況により失業率が増加する近年、救急車搬送される安定した住居を持たない緊急要保護患者いわゆるホームレス患者（以下、行旅病人）が急増している。一般にホームレスの人たちに対するケアは世界の多くの都市で保健医療福祉施策の重要な課題とみなされてきている。これらのホームレスの人たちを対象として、いくつかの調査や研究が実施されているが、生化学的所見を含んだホームレスの人たちの一般健康状態の実態の報告は未だ少ない。そこで、本研究は、救急告知病院に救急車搬送された行旅病人を対象に、大都市部における行旅病人の健康状態および健康状態に関連する健康指標を明らかにすることを目的として、実施したものである。

〔方法ならびに成績〕神戸市 A 救急告知病院において平成 8 年 1 月から同 14 年 12 月の間に救急車搬送され入院となった全行旅病人男性 60 人を調査対象とし、対照群として同期間に入院となった非救急車搬送整形外科患者、救急車搬送一般患者の中から年齢を±9 歳内にマッチさせた男性それぞれ 120 人を対照として設定し、症例対照研究を行った。入院の要因となったと判断された疾病は、第 10 回修正国際分類の大分類に基づき分類した。入院時に医師あるいは看護師が個別に面接を行い、安定した住居の有無、家族との連絡の有無、医療保険の有無、入院歴、飲酒歴、肺結核既往歴などについて調査した。入院時に実施した検査は、血液検査、胸部 X 線検査、心電図検査などであり、本分析に用いた血液の検査項目は、白血球数、赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット、AST、ALT、γ-GTP、総蛋白、総ビリルビン、尿素窒素、クレアチニン、総コレステロール、トリグリセリド、HBs 抗原、梅毒血清反応 RPR カードテスト、TPHA テストである。対象となった行旅病人の年齢分布は 35 歳～72 歳で、平均年齢は 56.6 歳であった。アルコール依存症、3 回以上の入院歴を有する者の割合は行旅病人がともに 31.7%で最も多く、家族と連絡をとれる者の割合は 3.3%と最も少なかった。入院の要因となったと判断された疾病をみると、栄養障害、脱水などの内分泌、栄養および代謝疾患（E000-E99）、アルコール依存症による精神および行動の障害（F000-F99）、慢性肝炎、肝硬変、急性・慢性膵炎、急性・慢性胃炎などの消化器系の疾患（K000-K938）を有する者の割合が行旅病人で最も多く、狭心症、脳内出血、脳梗塞などの循環器系の疾患（I00-I99）を有する者は一般患者に多かった。感染症検

査では、HBs 抗原、TPHA テスト、RPR カードテスト陽性者、肺結核既往を有する者の割合が行旅病人で最も多かった。整形外科患者を基準とした行旅病人の年齢調整オッズ比は、高ビリルビン血症 3.64 [95%信頼区間 (CI) : 1.56-8.50]、高尿素窒素血症 6.16 (CI : 2.50-15.16)、高クレアチニン血症 47.6 (CI : 6.13-369.87)、脱水 3.94 (CI : 1.30-11.93)、低トリグリセリド血症 4.86 (CI : 1.42-16.67)、肝機能障害 2.38 (CI : 1.26-4.51)、貧血 6.14 (CI : 2.99-12.63) であり、一般患者の年齢調整オッズ比は、低蛋白血症 2.47 (CI : 1.31-4.67)、低コレステロール血症 9.45 (CI : 2.13-42.00)、白血球増多 2.15 (CI : 1.27-3.63) であった。行旅病人と一般患者の入院中の血液検査平均値の推移をみると、AST は両者で有意な改善を示し、尿素窒素、クレアチニン、尿素窒素/クレアチニン比については一般患者では改善はみられなかったが、行旅病人では有意な改善がみられた。

〔総括〕大都市部の行旅病人は 50 歳代を中心とした壮年期の単身男性が多く、多様な疾病を有していることが示された。また、血液検査所見では、尿素窒素、クレアチニン、尿素窒素/クレアチニン比、AST が、入院時の行旅病人の健康状態と入院加療の効果を最もよく反映する健康指標であることが明らかとなった。入院時の行旅病人の健康状態は適切な初期治療が欠如しているため、治療されずに放置されたり、十分に管理をされないまま病気が経過した結果であり、適切な初期治療によりホームレスの人たちの深刻な健康障害を予防するシステムを緊急に構築することが切に望まれる。

論文審査の結果の要旨

本研究は、救急告知病院に救急車搬送された行旅病人を対象に、大都市部における行旅病人の健康状態および健康状態に関連する健康指標を明らかにすることを目的として、実施したものである。

神戸市 A 救急告知病院において平成 8 年 1 月から同 14 年 12 月の間に救急車搬送され入院となった全行旅病人男性 60 人を調査対象とし、対照群として同期間に入院となった非救急車搬送整形外科患者、救急車搬送一般患者の中から年齢を±9 歳内にマッチさせた男性それぞれ 120 人を対照として設定し、症例対照研究を行った。

血液検査所見について整形外科患者を基準とし、年齢調整した行旅病人のオッズ比は、高ビリルビン血症 3.64 [95% 信頼区間 (CI) : 1.56-8.50]、高尿素窒素血症 6.16 (CI : 2.50-15.16)、高クレアチニン血症 47.6 (CI : 6.13-369.87)、脱水 3.94 (CI : 1.30-11.93)、低トリグリセリド血症 4.86 (CI : 1.42-16.67)、肝機能障害 2.38 (CI : 1.26-4.51)、貧血 6.14 (CI : 2.99-12.63) であり、一般患者の年齢調整オッズ比は、低蛋白血症 2.47 (CI : 1.3-4.67)、低コレステロール血症 9.45 (CI : 2.13-42.00)、白血球増多 2.15 (CI : 1.27-3.63) であった。行旅病人と一般患者の入院中の血液検査平均値の推移をみると、AST は両者で有意な改善を示し、尿素窒素、クレアチニン、尿素窒素/クレアチニン比については一般患者では改善はみられなかったが、行旅病人では有意な改善がみられた。

本研究は、大都市部の行旅病人は 50 歳代を中心とした壮年期の単身男性が多く、多様な疾病を有していることを示し、血液検査所見では、尿素窒素、クレアチニン、尿素窒素/クレアチニン比、AST が、入院時の行旅病人の健康状態と入院加療の効果を最もよく反映する健康指標であることを明らかにしたものであり、学位に値する。